

さようなら原発新署名提出

— 福島汚染水海洋放出などを追求

さようなら原発 1000 万人署名の後、今年 2 月から始まった新署名「原発回帰を許さず、再生可能エネルギーの促進を求める全国署名」の第 1 次提出が、5 月 30 日に衆議院第二議員会館で行われました。第一次集約分 19,893 筆が、経済産業省と原子力規制委員会に渡されました。

署名は、審議が続いていた GX（グリーン・トランスフォーメーション）法案と放射能汚染水の海洋放出に対して市民の反対の声を届ける形となりました。4 つの要請項目①運転延長と原発の再稼働を中止すること、②原発のリプレースを含む新增設を中止すること、③福島第一原発の汚染水の海洋放出を中止すること、④気候危機に原発ではなく、再生可能エネルギーの活用を促進することの他に補足質問を出し、その回答をもらいました。

福島・汚染水問題として、「汚染水放出に際しては、漁業者の同意は必要ですか？」の問いには、頑なに漁業者との約束を「尊重」としか言わず、漁業者の理解が得られるまで「放出はしない」との言葉は口にしませんでした。「汚染水放出期

間がありますか？」の質問にも、ロードマップに示された「2051 年の事故収束まで」と繰り返していました。難航している廃炉・解体作業がつづき、「それ以上に延びたら」との追及にも「2051 年」を繰り返すばかりでした。

原発の再稼働問題の中で、「使用済み MOX 燃料の処理・処分の見通し」についての問いに、「2030 年代後半に技術確立」と答え、甘い見通しの上にプルサーマルが進められていることが明らかになりました。後日同じ担当者に別の場での議論で、現在、技術開発はどこまで進めているのかとの問いに対して、フランスと共同で行い、日本では原子力研究開発機構と日本原燃とのことでした。日本原燃は、六ヶ所再処理工場もまともに完成させることもできないのに、その先の MOX 再処理など 2030 年後半に技術確立ができるなど、到底考えられません。

今回提出した署名はまだ少ないですが、第二次提出は、秋の臨時国会の時期に合わせて提出し、交渉をすすめたいと考えています。ぜひ、今後ともご協力をお願いいたします。

汚染水を海に流すな！—海の日全国一斉アクションを呼びかけます

「これ以上海を汚すな！市民会議」と「さようなら原発 1000 万人アクション」は、「汚染水を海に流すな！」を合言葉に、汚染水の海洋放出の閣議決定から 2 年目に当たった 4 月 13 日に、「グローバル アクション」を国内外に呼びかけ、各地でスタンディングや抗議行動がとりくまれました。今回、7 月 17 日の「海の日」に合わせ「ふるさとの海、日本の海、世界の海を放射能でこれ以上汚してはなりません」として、あらためて全国一斉のスタンディング等の行動を 2 団体で呼びかけることになりました。

今夏は、海洋放出が強行されるかもしれません。それゆえに、全国からの声を集めて汚染水の海洋放出を止めねばなりません。

「かけがえのない海と命を守ろう！」と各地から声を上げてください。

日時 2023 年 7 月 17 日（月・祝「海の日」）を中心に

行動 スタンディング等のアクション

アクションをぜひ「さようなら原発 1000 万人アクション」や「これ以上海を汚すな！市民会議」に写真や動画などをお送りください。